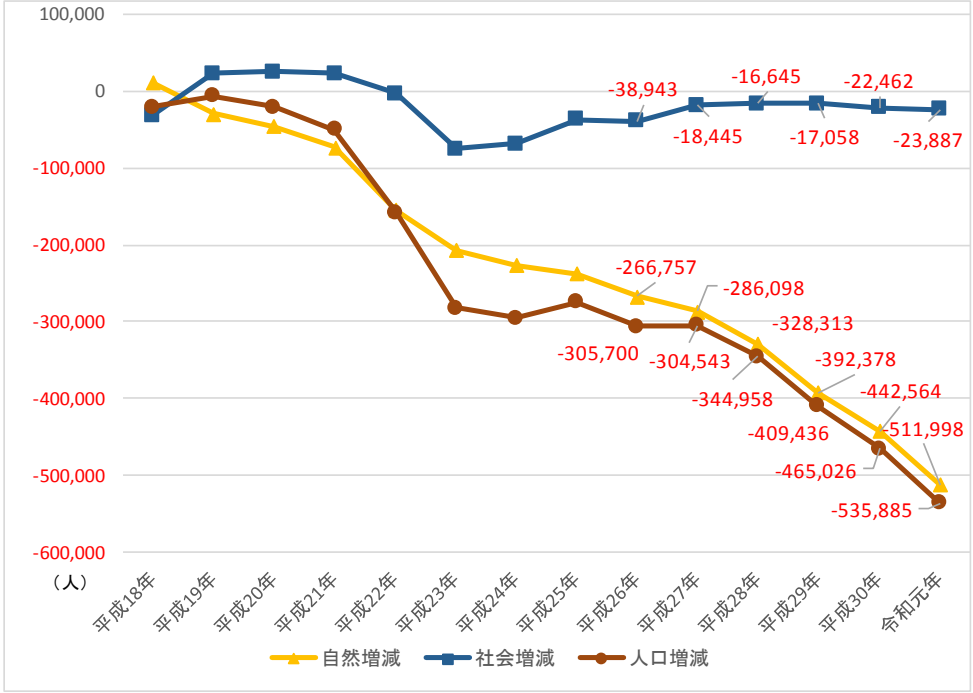


1 人口動態の推移

単位:人

	総人口	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
平成18年	127,055,025	1,091,917	1,081,174	10,743	5,688,042	5,719,624	-31,582
平成19年	127,053,471	1,096,465	1,125,584	-29,119	5,627,314	5,604,537	22,777
平成20年	127,066,178	1,088,488	1,134,402	-45,914	5,510,512	5,485,613	24,899
平成21年	127,076,183	1,073,081	1,146,105	-73,024	5,346,629	5,324,052	22,577
平成22年	127,057,860	1,070,445	1,224,970	-154,525	5,147,812	5,151,307	-3,495
平成23年	126,923,410	1,049,553	1,256,125	-206,572	5,177,080	5,252,534	-75,454
平成24年	126,659,683	1,029,433	1,255,551	-226,118	5,068,173	5,137,166	-68,993
平成25年	126,393,679	1,030,388	1,267,838	-237,450	5,164,139	5,201,248	-37,109
平成26年	126,434,634	1,003,554	1,270,311	-266,757	5,063,791	5,102,734	-38,943
平成27年	126,163,576	1,010,046	1,296,144	-286,098	5,205,080	5,223,525	-18,445
平成28年	125,891,742	981,202	1,309,515	-328,313	5,048,113	5,064,758	-16,645
平成29年	125,583,658	948,396	1,340,774	-392,378	5,061,360	5,078,418	-17,058
平成30年	125,209,603	921,000	1,363,564	-442,564	5,056,462	5,078,924	-22,462
令和元年	124,776,364	866,908	1,378,906	-511,998	5,055,484	5,079,371	-23,887
増減率(H26-R1)	-1.3%	-13.6%	8.5%		-0.2%	-0.5%	

資料出所:総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、厚生労働省「人口動態調査」

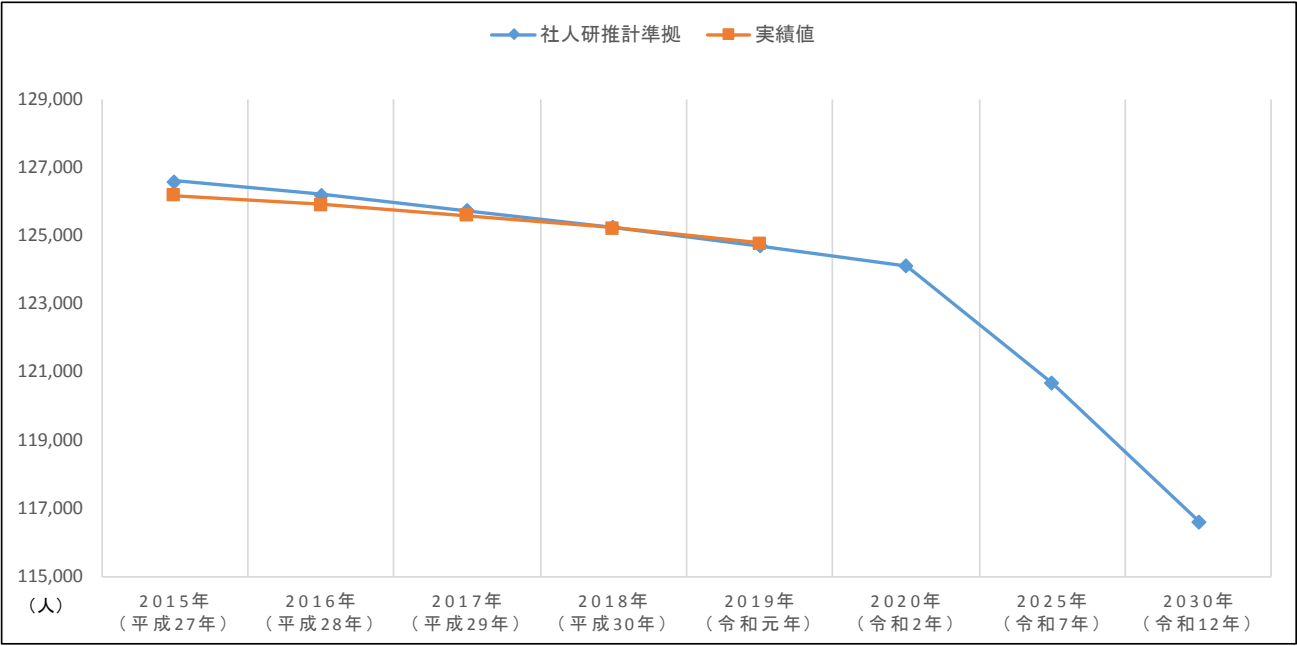


2 人口将来推計との比較

単位:千人

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)
社人研推計準拠	126,597	126,193	125,739	125,236	124,689	124,100	120,659	116,618
実績値	126,164	125,892	125,584	125,210	124,776			

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)「日本の将来推計人口(平成24年推計):出生中位(死亡中位)推計」



- 1 日本全体では、人口は平成21年をピークに減少し続けており、平成22年以降は自然減かつ社会減という状況が続いています。出生数は、平成18年から約23万人減少し、平成28年以降は100万人を割り込む一方、死亡数は平成19年以降、出生数を上回って増加し続けています。
- 2 過去5年間の人口推移は、国が平成26年12月に策定したまち・ひと・しごと創生長期ビジョンにおける将来人口推計とほぼ同様であり、やや緩やかに人口減少が進んでいます。

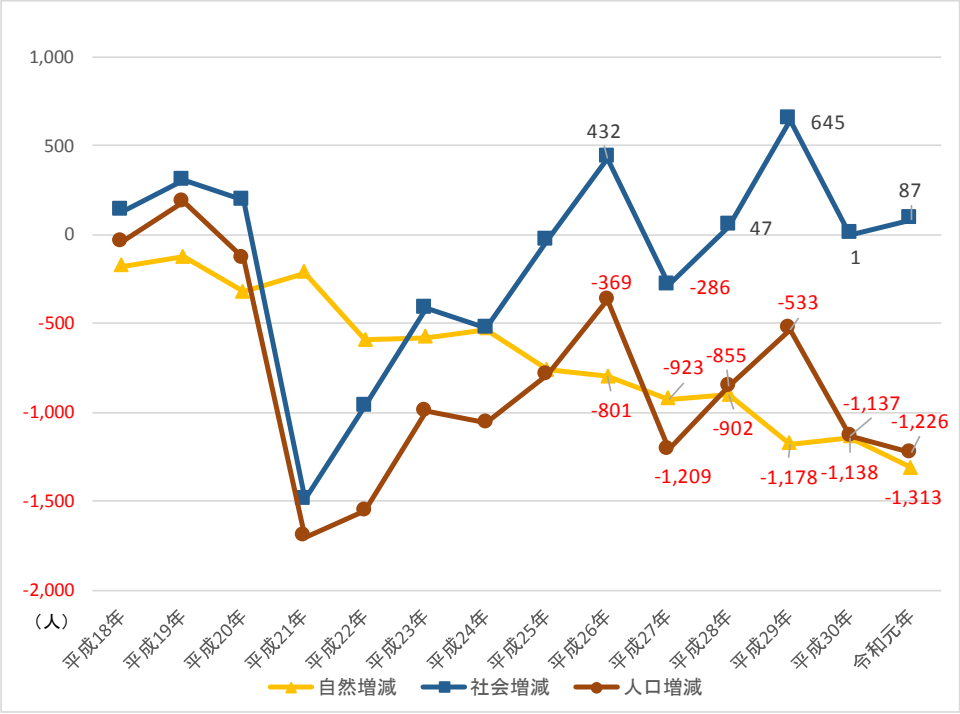
【津市】人口動態のポイント

1 人口動態の推移

	総人口	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
平成18年	292,628	2,441	2,616	-175	13,578	13,446	132
平成19年	292,908	2,471	2,596	-125	12,690	12,383	307
平成20年	292,919	2,499	2,823	-324	12,824	12,632	192
平成21年	291,383	2,526	2,741	-215	11,247	12,734	-1,487
平成22年	289,908	2,302	2,892	-590	10,621	11,586	-965
平成23年	289,031	2,415	2,994	-579	10,759	11,175	-416
平成24年	287,068	2,348	2,881	-533	10,790	11,314	-524
平成25年	285,711	2,297	3,056	-759	10,402	10,431	-29
平成26年	284,811	2,196	2,997	-801	10,530	10,098	432
平成27年	283,103	2,057	2,980	-923	9,923	10,209	-286
平成28年	281,891	2,150	3,052	-902	10,385	10,338	47
平成29年	281,014	1,990	3,168	-1,178	10,650	10,005	645
平成30年	279,877	2,080	3,218	-1,138	11,225	11,224	1
令和元年	278,322	1,933	3,246	-1,313	10,993	10,906	87
増減率(H26-R1)	-2.3%	-12.0%	8.3%		4.4%	8.0%	

※各年10月1日時点

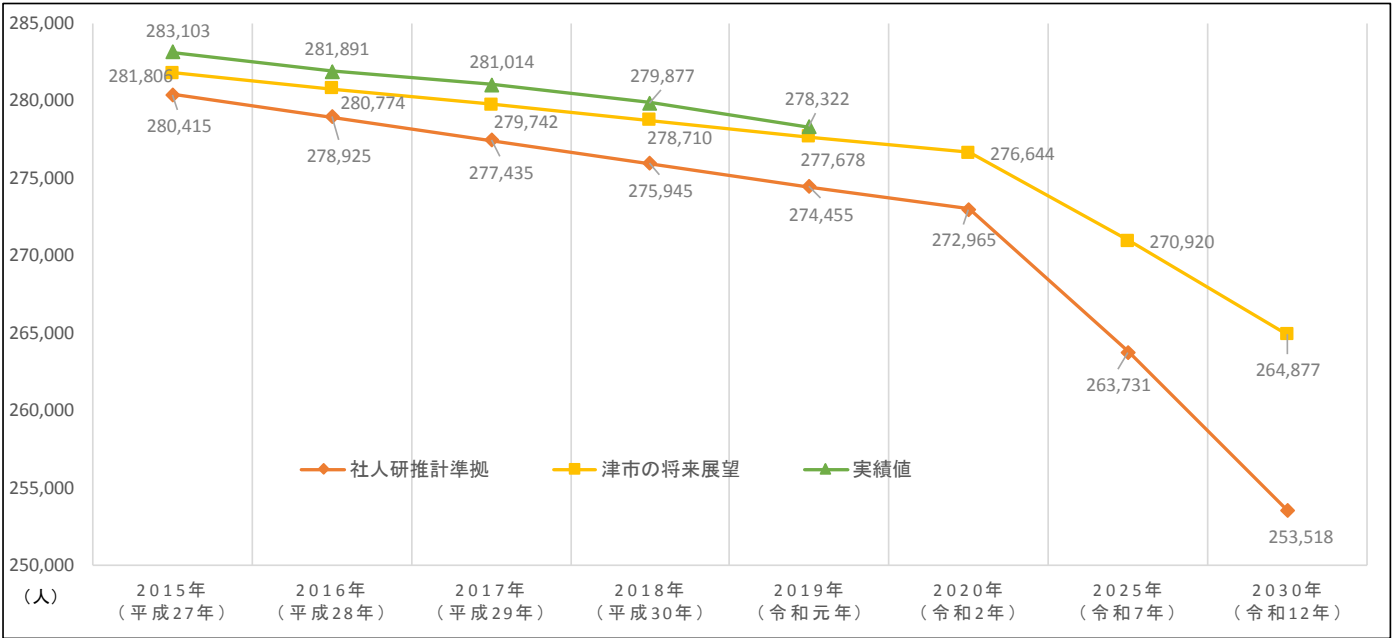
資料出所：三重県「月別人口調査結果 年報」、三重県「衛生統計年報」
※総人口は、津市住民基本台帳より(各年9月30日現在)



2 人口将来推計との比較

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)	2045年 (令和27年)
社人研推計準拠	280,415	278,925	277,435	275,945	274,455	272,965	263,731	253,518	242,682	231,320	219,521
津市の将来展望	281,806	280,774	279,742	278,710	277,678	276,644	270,920	264,877	258,832	252,477	245,789
実績値	283,103	281,891	281,014	279,877	278,322						

※社人研推計準拠、津市の将来展望の数値(平成26年戦略策定時)、2016年～2019年数値については、減少値を各年度に按分

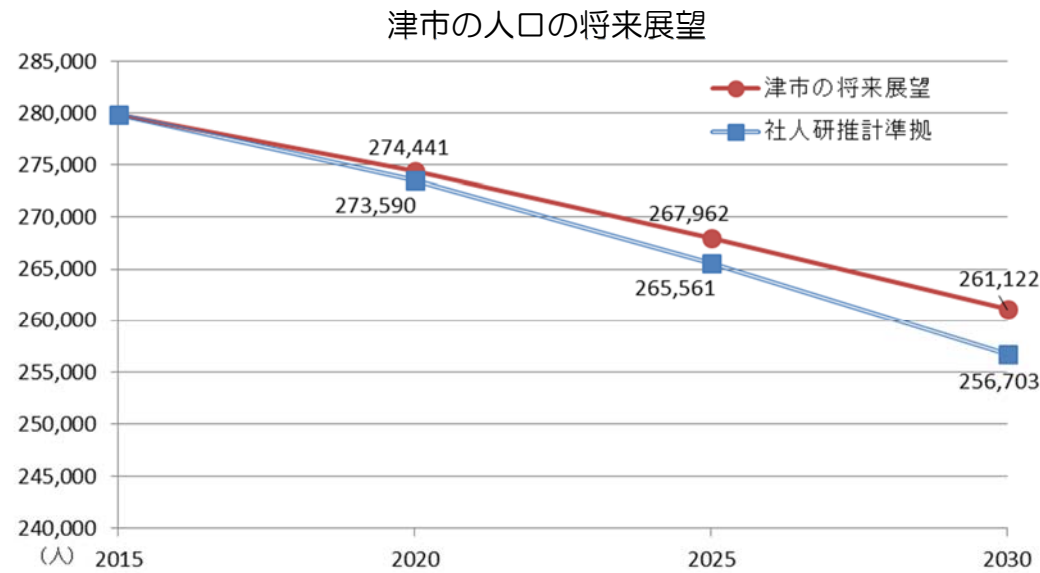


- 1 津市においても平成20年以降、人口は減少傾向となっています。自然増減については、出生数の減少と死亡数の伸びによる自然減の影響が大きく、社会増減については、変動はあるものの、近年は転入超過が続いています。
- 2 戦略策定時における人口推計と比較すると人口減少のスピードはやや緩やかなものとなっています。

【津市】人口動態のポイント

■第 2 期計画における津市の人口の将来展望

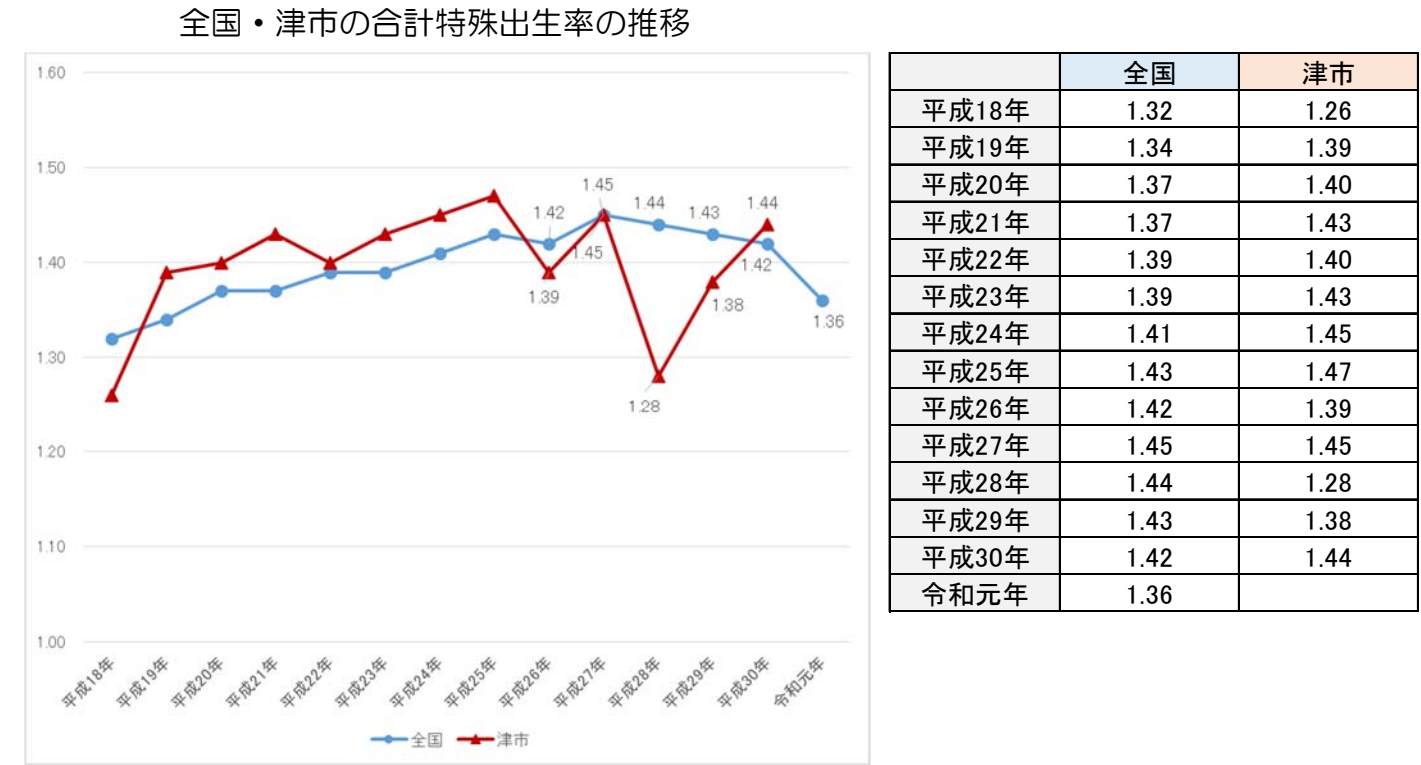
現在の状況を踏まえ、第 2 期計画における人口の将来展望を示します。
社人研推計を基本として、過去の転入超過数や自然増減の状況や国・県が示す将来目標値等を参考に、①転入超過数を 1 0 0 人、②合計特殊出生率を 2025 年に 1.60、2030 年に 1.70 になると仮定すると、第 2 期計画終了時（2025 年）の総人口は社人研推計よりも 2,401 人多い 267,962 人に、約 10 年後の総人口は社人研推計よりも 4,419 人多い 261,122 人になることが見込まれます。



（備考）社人研推計準拠は、国において社人研の推計を機械的に延長されたデータを元に作成し、2030 年まで機械的に延長したものです。

■全国・津市の合計特殊出生率の推移

全国の合計特殊出生率は、1.3～1.4 台の値で推移しており、津市の合計特殊出生率も同程度の値で推移しています。



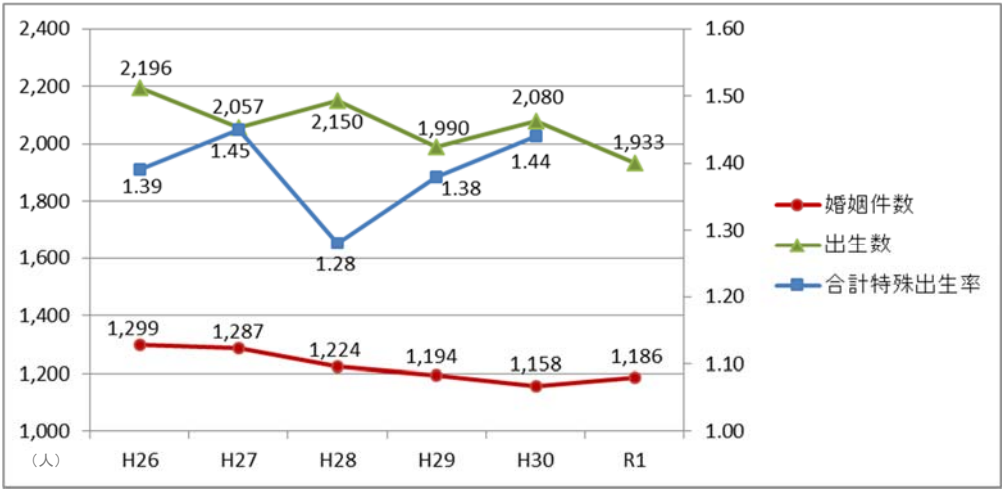
資料出所：厚生労働省「人口動態調査」、三重県「衛生統計年報」

基本目標① 出会い・結婚・出産・子育てしやすい環境づくり

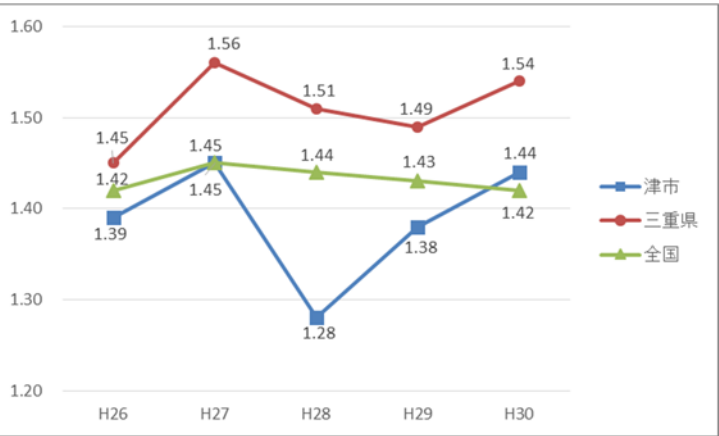
1 津市の合計特殊出生率・婚姻件数・出生数の状況

※合計特殊出生率…15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する指標。2.07 が人口維持水準（人口置換率）となる。

図表 1 津市の合計特殊出生率・婚姻件数・出生数の関係

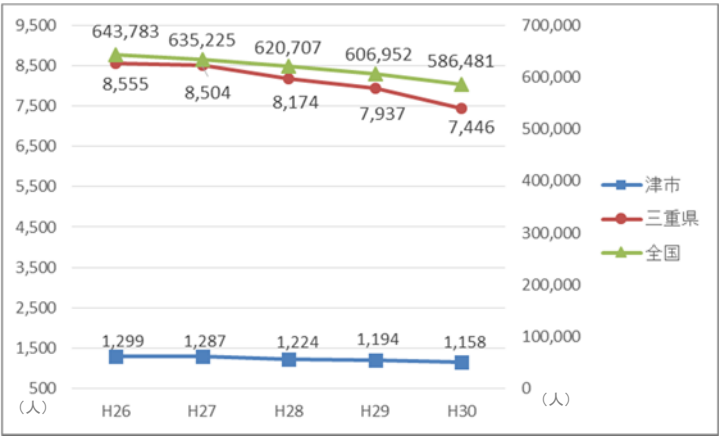


図表 2 合計特殊出生率 全国・三重県との比較

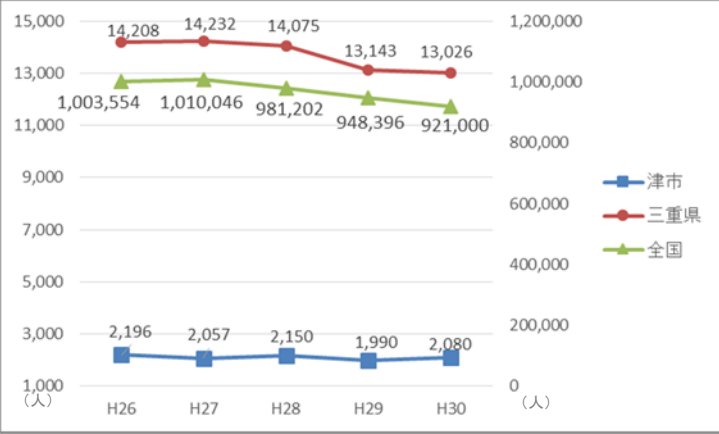


※H28 の数値は県による厚生労働省への出生数等の報告漏れがあったため、暫定数値

図表 3 婚姻件数 全国・三重県との比較



図表 4 出生数 全国・三重県との比較



資料出所：厚生労働省「人口動態調査」、三重県「衛生統計年報」、津保健所年報
県統計課「月別人口調査」・「三重県勢要覧」・「三重県統計書」、令和元年婚姻数（速報値）は、津市市民課データ

2 全国の結婚過程の状況

図表 5 平均出会い年齢と平均初婚年齢の推移

調査（調査年次）	夫		妻		平均 交際期間
	平均出会い年齢	平均初婚年齢	平均出会い年齢	平均初婚年齢	
総数（お見合い、結婚相談所、恋愛結婚）					
第9回調査（1987年）	25.7歳	28.2	22.7歳	25.3	2.54年
第10回調査（1992年）	25.4	28.3	22.8	25.7	2.95
第11回調査（1997年）	25.1	28.4	22.7	26.1	3.37
第12回調査（2002年）	24.9	28.5	23.2	26.8	3.57
第13回調査（2005年）	25.3	29.1	23.7	27.4	3.76
第14回調査（2010年）	25.6	29.8	24.3	28.5	4.26
第15回調査（2015年）	26.3	30.6	24.8	29.1	4.26
恋愛結婚					
第9回調査（1987年）	24.1歳	27.3	21.6歳	24.7	3.15年
第10回調査（1992年）	24.2	27.6	21.9	25.3	3.38
第11回調査（1997年）	24.2	27.9	22.1	25.7	3.67
第12回調査（2002年）	24.2	28.0	22.7	26.5	3.84
第13回調査（2005年）	24.6	28.6	23.0	27.1	4.07
第14回調査（2010年）	24.9	29.3	23.6	28.1	4.48
第15回調査（2015年）	25.5	30.0	24.1	28.7	4.55

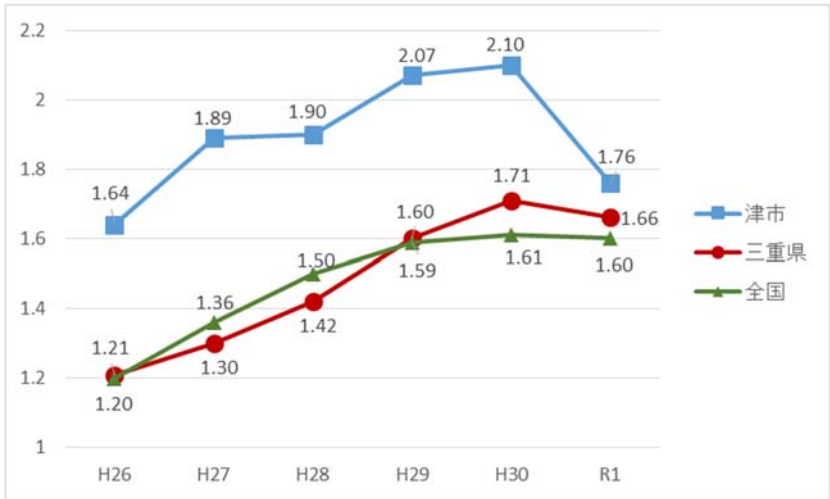
資料出所：出生動向基本調査（平成 27 年 6 月実施）

1. 婚姻件数、出生数が緩やかな減少傾向であるのに対し、合計特殊出生率は若干の増減を繰り返しています。三重県、全国との比較においても3つの指標の動向としては同様の動きとなっています。
2. 社人研による出生動向基本調査を見ると、出会い年齢の上昇と交際期間の伸長により、平均初婚年齢は上昇し続けており、晩婚化が進行しています。

基本目標② 産業振興、企業立地等による安定した雇用の創出・拡大

1 有効求人倍率の状況

図表 1 有効求人倍率（年度平均）全国・三重県との比較



資料出所：三重労働局「労働市場月報」、津公共職業安定所「ハローワーク☆ニュース津」

図表 2 職種別の有効求人倍率（令和元年 12 月末時点）

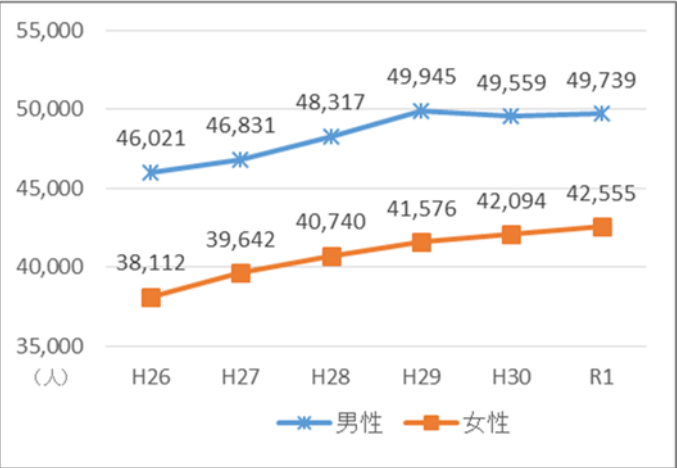
全職種	専門・技術職	事務職	販売職	サービス職	保安職
1.59倍	2.38倍	0.62倍	3.00倍	3.97倍	15.85倍
生産工程	機械運転・輸送	建設・採掘	運搬・清掃・包装		
1.55倍	2.61倍	10.60倍	0.83倍		

※学卒を除きパートを含む常用

資料出所：津公共職業安定所「ハローワーク☆ニュース津」

2 津市の雇用の状況

図表 3 雇用保険被保険者数（各年度末時点）



資料出所：津公共職業安定所「ハローワーク☆ニュース津」

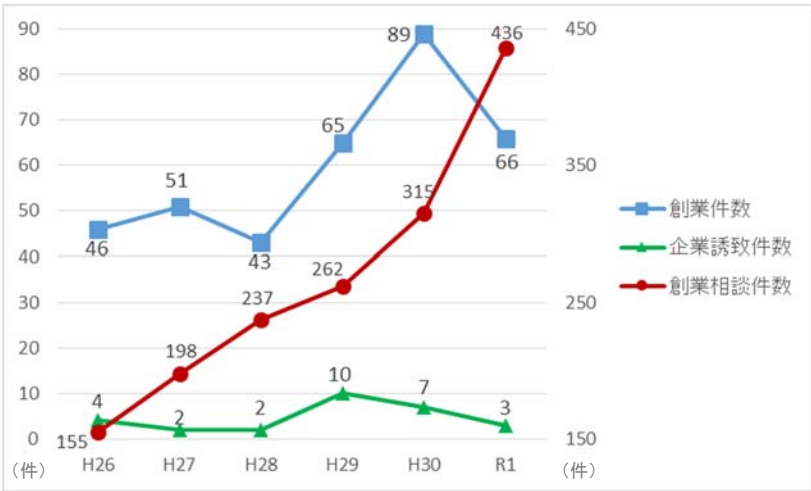
図表 4 雇用保険適用事業所数（各年度末時点）

H26	4,215
H27	4,269
H28	4,364
H29	4,465
H30	4,519
R1	4,542
増加率(H26-R1)	7.76%

資料出所：津公共職業安定所「ハローワーク☆ニュース津」

3 津市の創業件数・企業誘致件数等の推移

図表 5 創業件数・企業誘致件数等の推移



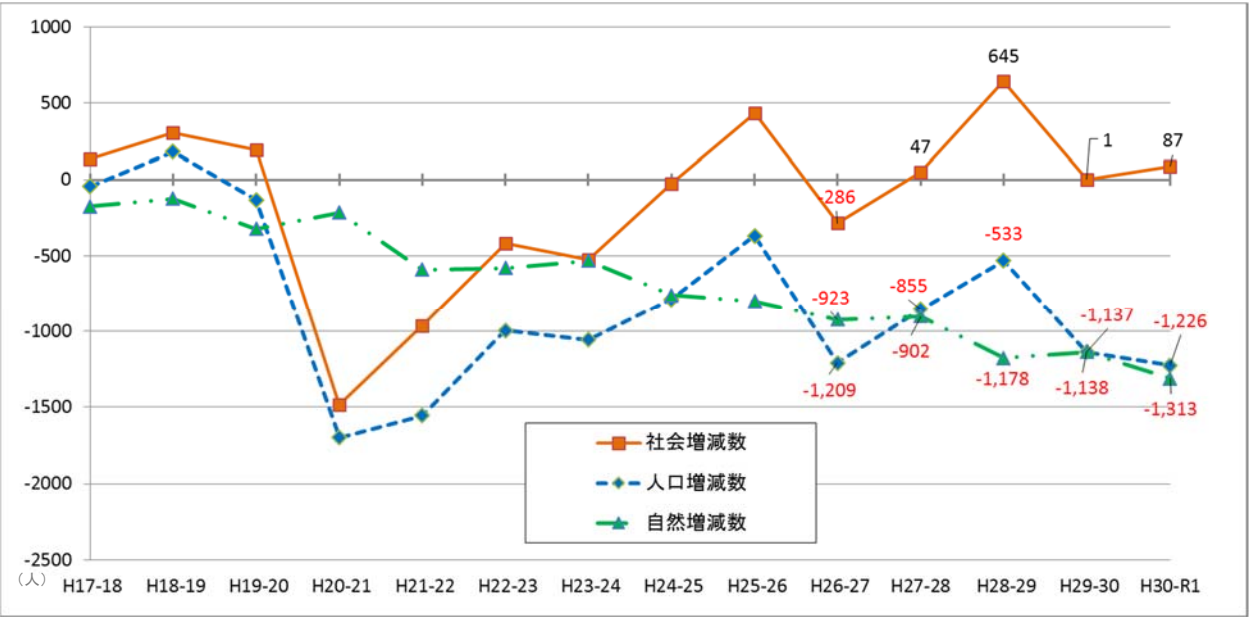
資料出所：津市「津のいま・みらい」、資料 4：基本目標②-(1)-オ「市及び関係機関の支援による創業件数」

- 津市の有効求人倍率と全国、三重県との比較を見ても、津市は全国、三重県を上回る水準となっており、雇用状況は堅調です。有効求人倍率を職種別にみると、「事務職」や「運搬・清掃・包装」の倍率は1倍を下回っており、一方で保安職は15.85倍となっており、求人と求職がミスマッチの状況にあります。
- 雇用保険被保険者数や雇用保険適用事業所数は、雇用情勢の改善を受け、増加傾向にあります。
- 平成29年に産業振興のワンストップ窓口として津市ビジネスサポートセンターを設立し、創業希望者の掘り起こしなどを行ったこともあり、創業相談件数は大きく伸長、それにともない創業件数も増加傾向となっております。また、津市の公的工業団地中勢北部サイエンスシティへの企業誘致件数も毎年一定数を確保しており、創業、企業誘致ともに市内における雇用に一定レベル貢献しているものと思われます。

基本目標③ 定住・還流・移住などによる新たなひとの流れの創出

1 津市の自然増減・社会増減の状況

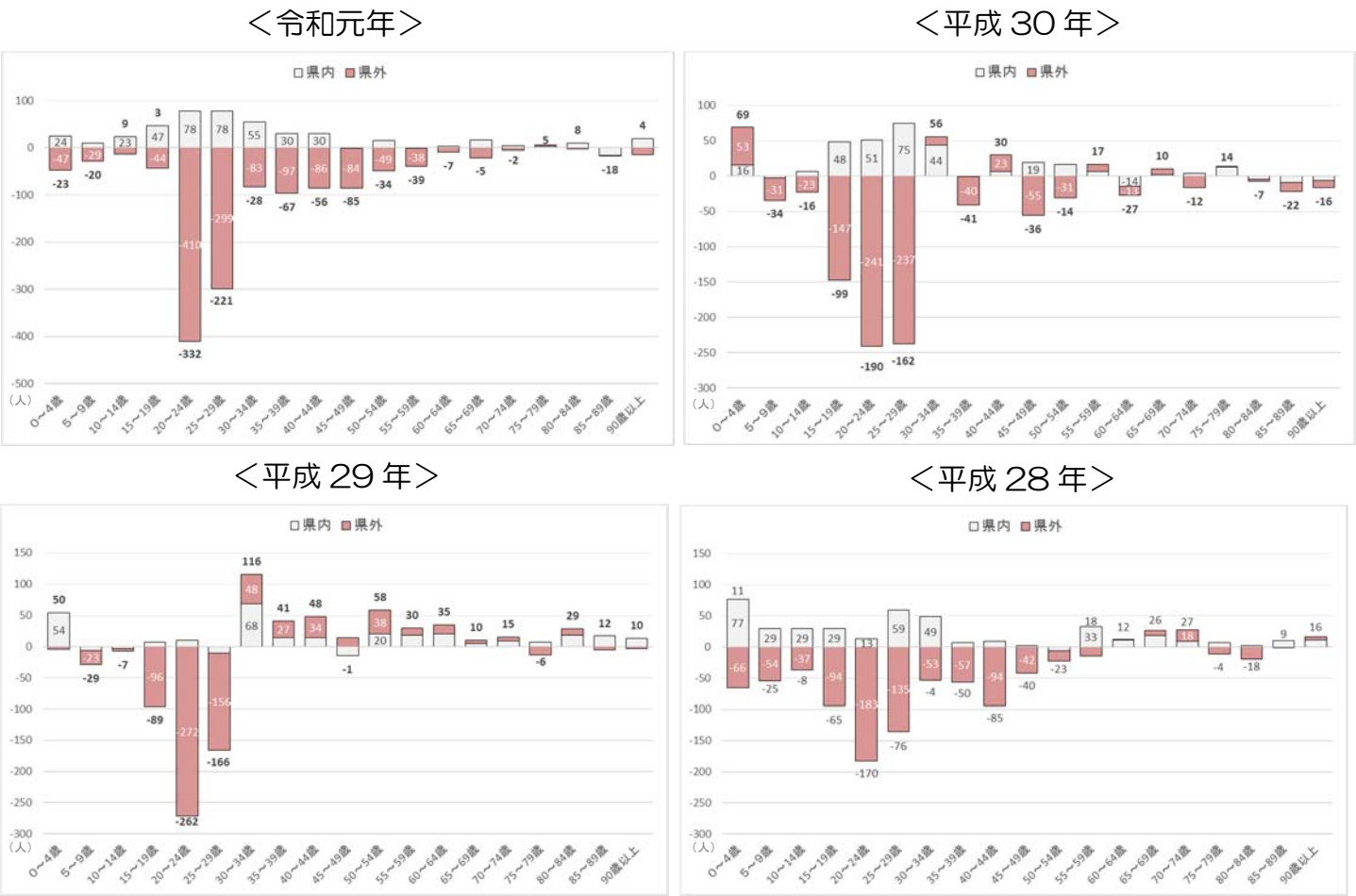
図表1 総人口の増減における自然・社会増減



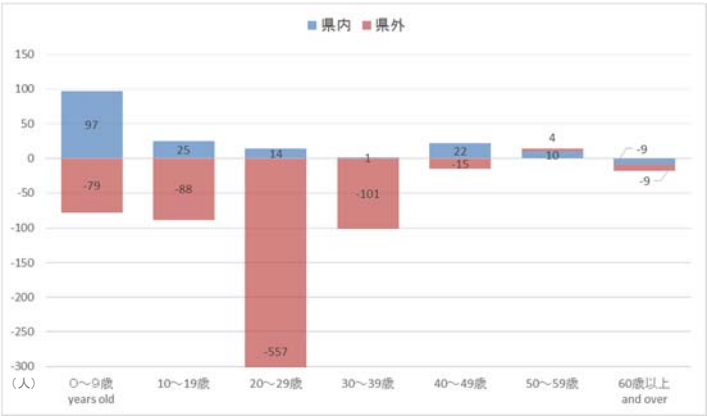
資料出所：県統計課「月別人口調査」（10月1日～9月30日）・「三重県勢要覧」

2 津市の年齢階級別の純移動数（転入数－転出数）

図表2 年齢階級別 純移動数（転入数－転出数）



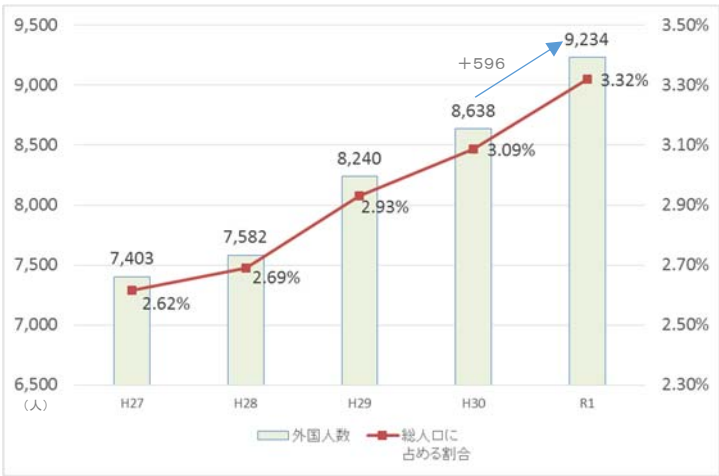
<平成 27 年>



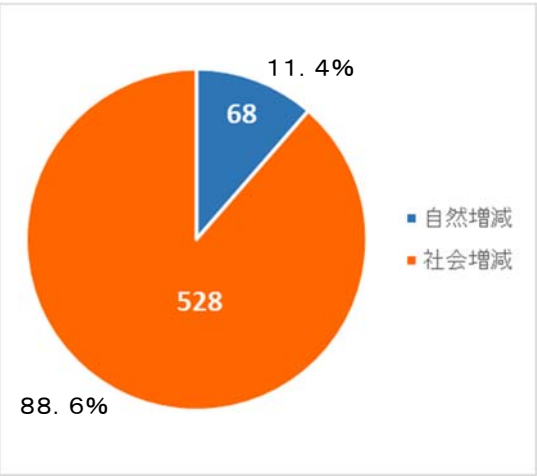
資料出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」 ※図表1と統計データや時点が異なるため数値は合致しません。

3 津市の外国人数の推移

図表3 津市の外国人数の推移



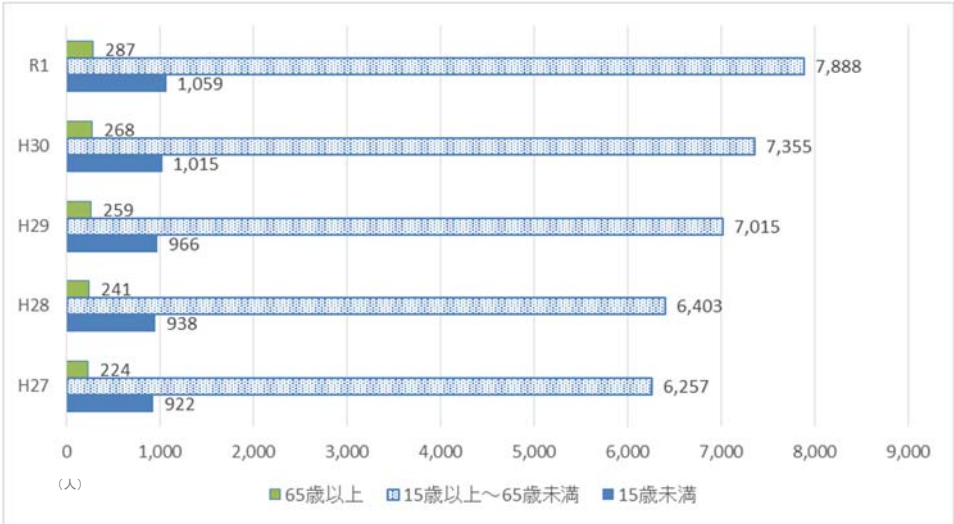
図表4 R1 外国人増加数（596人）の内訳



資料出所：津市「住民基本台帳」 ※いずれも12月31日時点の数値

4 津市の年齢3区分別の人口推移（外国人）

図表5 年齢3区分別の推移（外国人）

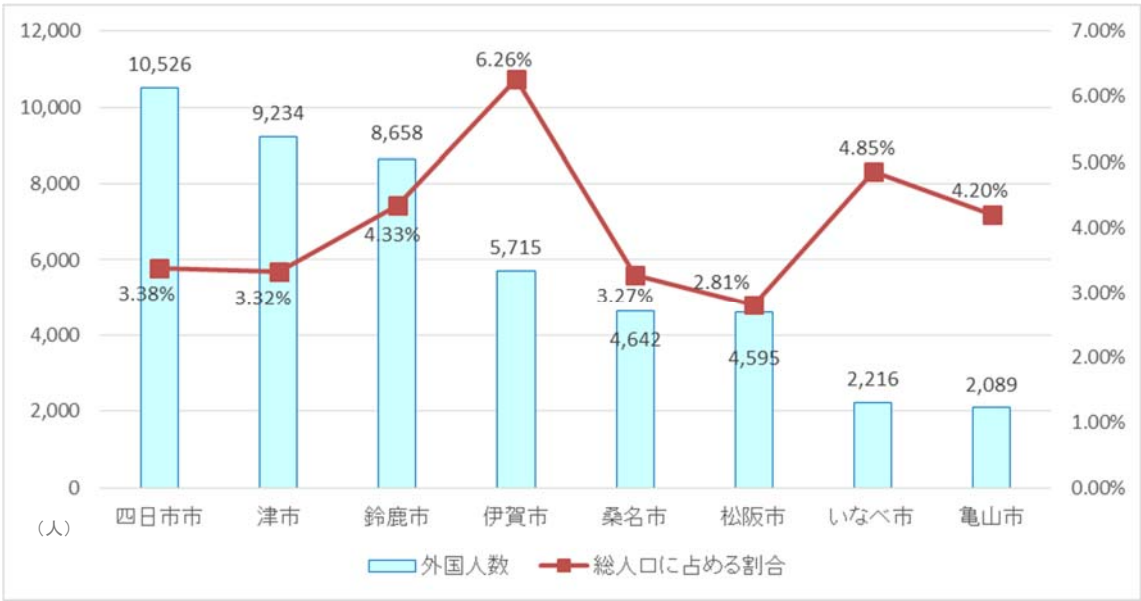


資料出所：津市「住民基本台帳」 ※いずれも12月31日時点の数値

基本目標③ 定住・還流・移住などによる新たなひとの流れの創出

5 県内市の外国人数と総人口に占める割合（令和元年 12 月末時点）

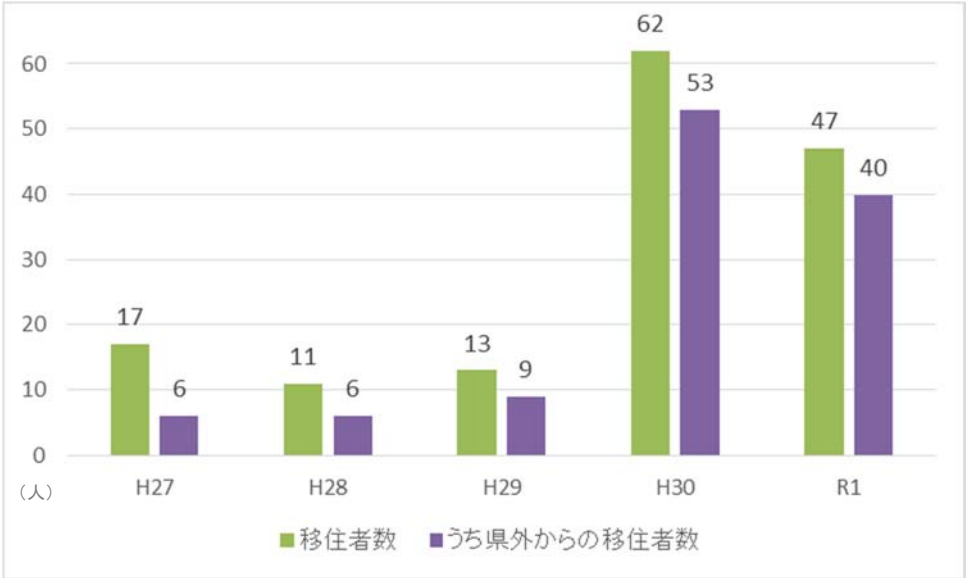
図表6 県内市の外国人数と総人口に占める割合



資料出所：三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査」

6 県・市の移住施策を利用して津市へ移住した人の数の推移

図表7 県・市の移住施策を利用して津市へ移住した人の数の推移



資料出所：津市政策課から三重県に報告している移住者数データ

7 津市への移住者に対するアンケート結果

① 移住のきっかけ

図表8 移住のきっかけ

移住のきっかけ	R1	割合	H30	割合	H29	割合	H28	割合
地方で働きたい・田舎で暮らしたい	2人	15.4%	5人	18.5%	2人	22.2%	2人	28.6%
環境の良いところで子育てがしたい	0人	0.0%	0人	0.0%	3人	33.3%	1人	14.3%
定年後に地方でのんびりしたい	0人	0.0%	3人	11.1%	0人	0.0%	1人	14.3%
実家の近くに戻りたい	2人	15.4%	8人	29.6%	0人	0.0%	2人	28.6%
観光等で訪れて好きになった地域で暮らしたい	1人	7.7%	2人	7.4%	1人	11.1%	0人	0.0%
趣味に興じたい	1人	7.7%	2人	7.4%	0人	0.0%	0人	0.0%
その他	4人	30.8%	7人	25.9%	1人	11.1%	1人	14.3%
不明	3人	23.1%	0人	0.0%	2人	22.2%	0人	0.0%

② 移住後の生活基盤

図表9 移住後の生活基盤

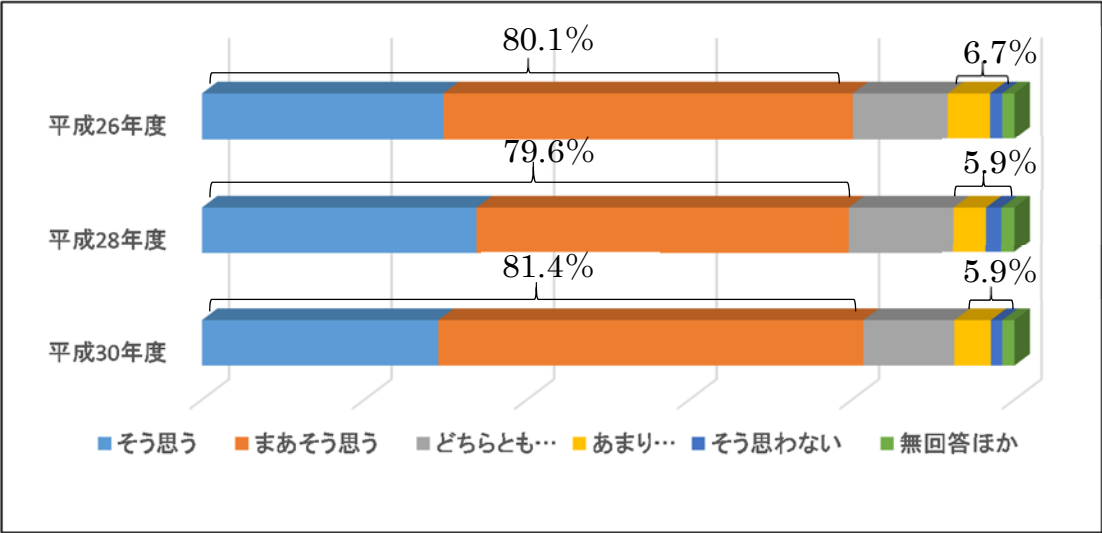
移住先での生活基盤	R1	割合	H30	割合	H29	割合	H28	割合
企業での就業	8人	61.5%	33人	80.5%	4人	40.0%	1人	12.5%
農業	1人	7.7%	1人	2.4%	2人	20.0%	1人	12.5%
林業	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	10.0%	0人	0.0%
漁業	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	1人	12.5%
起業・創業・自営業	1人	7.7%	5人	12.2%	3人	30.0%	1人	12.5%
年金	2人	15.4%	1人	2.4%	0人	0.0%	3人	37.5%
その他	1人	7.7%	1人	2.4%	0人	0.0%	1人	12.5%

- 令和元年は特に 20 歳から 29 歳までの階級で県外への転出超過が大きく、県内からは転入超過となっています。過去の傾向を見ても、15 歳から 29 歳までの階級において県外への転出超過が大きく、県内からは転入超過の傾向が見られます。
- 外国人数の推移は、平成 27 年の 7,403 人から令和元年の 9,234 人まで、5 年間で 1,831 人増加しており、その多くが転入者となっています。また総人口に占める割合も年々多くなっております。
- 平成 27 年（2015 年）以降の外国人の年齢 3 区分別人口推移を見ると、全ての年齢区分において増加していますが、特に 15 歳以上から 65 歳未満の生産年齢人口が年々増加しています。
- 県内市の外国人数を見ると、津市は四日市市に次いで多く、総人口に占める割合では、三重県平均である 3.04%よりも高くなっています。
- 県や市の施策を利用して津市へ移住した人の数は、平成 27 年から平成 29 年まで 10 件程度で推移していましたが、空き家バンクの対象エリアが平成 29 年 7 月に美杉地域から全域に広がったことなどにより、平成 30 年以降大きく増加しております。
- 津市に実際に移住した人への直近のアンケートを見ると、移住のきっかけとしては、「地方で働きたい・田舎で暮らしたい」、「実家の近くに戻りたい」という人が多く、次いで「観光等で訪れて好きになった地域で暮らしたい」、「趣味に興じたい」という回答が多くなっています。移住後の生活基盤としては、「企業での就職」が最も多く、次いで、「年金」となっています。

基本目標④ 人と人が繋がった暮らしやすい地域づくり

1 市政アンケート結果

図表1 「総合的に判断して住みやすい」と回答した割合



	そう思う	まあそう思う	どちらとも… いえない	あまり そう思わない	そう思わない	無回答ほか
平成 26 年度	29.7%	50.4%	11.7%	5.2%	1.5%	1.5%
平成 28 年度	33.8%	45.8%	12.9%	4.0%	1.9%	1.6%
平成 30 年度	29.1%	52.3%	11.2%	4.5%	1.4%	1.5%

資料出所：市政アンケート結果より作成

1. 市政アンケートで「総合的に判断して住みやすい」と回答した割合は、平成 30 年度に 81.4%となり、目標値である 90.0%には至らなかったものの、計画策定時の平成 26 年と比べて 1.3 ポイント増加しています。
2. 企業が行っている自治体の住みやすさ調査では、津市は比較的高い評価を得ています。

2 津市の住み心地評価など

①三菱UFJ銀行不動産販売「自治体別住みよさランキング 2020 年版

県内 順位	全国 順位	市町村名	偏差値
1	45	いなべ市	52.77
2	92	四日市市	51.99
3	171	桑名市	51.19
4	207	亀山市	50.91
5	369	松阪市	49.91
6	379	津市	49.88
7	415	鈴鹿市	49.69
8	433	伊賀市	49.62
9	497	名張市	49.33
10	615	熊野市	48.61
11	621	伊勢市	48.58
12	652	鳥羽市	48.27
13	756	尾鷲市	47.14
14	811	志摩市	44.61

②いい部屋ネット「街の住みこち・住みたい街ランキング 2020<三重版>」

◆街の住みこちランキング

順位	市町村名	偏差値	評点	回答数
1	度会郡度会町	61.9	0.71	58
2	員弁郡東員町	61.8	0.70	81
3	三重郡朝日町	61.4	0.69	59
4	伊勢市	58.8	0.63	208
5	津市	57.1	0.59	596
6	鈴鹿市	56.3	0.57	416
7	三重郡川越町	56.1	0.57	58
8	四日市市	55.4	0.55	990
9	いなべ市	54.4	0.53	140
10	桑名市	53.7	0.51	448

※回答者数 4,322名

◆住みたい街ランキング

順位	市町村名	得票数	得票率
1	四日市市	24	1.1%
2	伊勢市	18	0.8%
3	桑名市	13	0.6%
4	津市	9	0.4%
5	松阪市	7	0.3%
特になし		1,192	55.4%
今住んでいる市		392	18.2%

※回答者数 2,153名

基本目標④ 人と人が繋がった暮らしやすい地域づくり

③AERA「後悔しないコロナ移住先ランキング」

順位	自治体名	点数	順位	自治体名	点数
1	兵庫県 福崎町	57	11	滋賀県 草津市	52
1	三重県 東員町	57	11	京都府 久御山町	52
3	京都府 長岡京市	54	11	三重県 津市	52
3	大阪府 箕面市	54	11	滋賀県 長浜町	52
3	兵庫県 三田市	54	15	大阪府 高槻市	50
3	兵庫県 加東市	54	15	大阪府 茨木市	50
7	滋賀県 守山市	53	15	大阪府 泉佐野市	50
7	三重県 いなべ市	53	15	兵庫県 川西市	50
7	滋賀県 甲賀市	53	15	滋賀県 野洲市	50
7	京都府 与謝野町	53	15	兵庫県 三木市	50
			15	和歌山県 有田川町	50
			15	滋賀県 東近江市	50